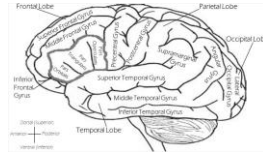


音声・音韻の研究

関連キーワード: ヒトの言語機能, 音声知覚・産出にかかわる法則, 音声変異（訛り等）の限界と法則

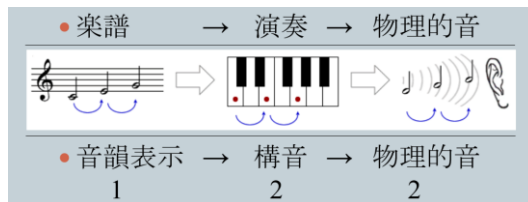
研究内容

ヒトの脳内に実在すると考えられる音声にかかわる認知範疇, および音の配列・交替にかかわる規則の解明を試みています。主な研究トピックは以下の3つです。



1. 単語を発音する際に用いる諸特性（音韻表示）が、どのように形成され、どのような形で記憶されているかについての解明
2. 1の音韻表示が、ヒトの言語運用器官を通してどのように具現化（線形化, 強勢付与, 分節音弱化）されるのかについての解明。
3. 世界中の言語の音韻現象を参照・分析し, 音声変異（訛り等）, 類型論, 歴史的変化の観点から, 1と2のモデルを構築する。

上述の1と2を, 音楽演奏過程と音声産出過程を比較することで説明すると次のようになります。1は, 演奏過程における「楽譜」に当たるもので, ヒトが脳内に記憶している単語を発音するための諸情報の束と言えます。



2は, 楽譜に記されている情報をもとに演奏する際に必要な (a) 楽器の仕組みや演奏に必要な身体部位の動かし方, および (b) 演奏により奏でられる音楽が意図通りのものかを確認するための聴覚活動にかかわるものです。言語活動において, (a) は発声器官とそれらの動かし方, そして (b) は聴覚器官とその機能に当たります。

研究者プロフィール

- ・文学部 英文学科 教授 那須川 訓也
- ・専門分野: 言語学, 英語学
- ・研究分野: 音韻論
- ・所属学会: 日本言語学会, 日本音韻論学会, GLOW
- ・主な著書



那須川訓也 (2022), 音声言語と手話言語における音韻特性の種類と言語機能障害, 石原・菊澤編『手話が「発音」できなくなる時: 言語機能障害からみる話者と社会』ひつじ書房, 55-64. ISBN: 978-4-8234-1156-4
Nasukawa, Kuniya (2020), Linearisation and stress assignment in Precedence-free Phonology: The case of English. *Radical: A Journal of Phonology* 1, 239-291.
Nasukawa, Kuniya (ed.) (2020), *Morpheme-internal Recursion in Phonology*. Boston and Berlin: Mouton de Gruyter. ISBN: 978-1-5015-1258-2
Nasukawa, Kuniya & Henk van Riemsdijk (eds.) (2014), *Identity Relations in Grammar*. Boston and Berlin: Mouton de Gruyter. ISBN: 9781614518181

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ 他

研究で得られた知見をもとに, 以下の知識や関連情報を提供します。

1. 諸言語の音声産出・知覚にかかわる諸特徴（発音規則等）
2. 英語や日本語をはじめとする言語の音声産出・知覚にかかわる能力を効率良く獲得するため方法, およびその教授法
3. 英語や日本語の音声にかかわる類型論的情報の提供
4. 英語や日本語の音声変異（訛り等）に関する情報提供
5. 英語音声にかかわる模擬授業の提供
6. 音声と文字の関係にかかわる模擬授業の提供

研究者への連絡先

産学連携推進センター

E-mail : srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp 電話 : 022-354-8122